

藤井四冠の「お年玉」

年始早々、関係者にとってまさしく「青天のへきれき」だった。将棋の藤井聡太四冠が1月10日に静岡であった王将戦第1局で会場入りする際に使った、桜島デザインの布製トートバッグがバズったのだ。

実はこのバッグ、鹿児島県観光連盟が海外セールス用に、鹿児島グッズを企画・販売する「カゴマニア」（鹿児島市）に特注した非売品で、2021年12月に指宿市を訪れた藤井四冠に贈った手土産の一つだった。ポップなデザインが気に入ったのだろう。手にしたバッグがマニアの目に留まった。この話題をスポーツ紙が報道した翌11日、通信販売で扱う山形屋（鹿児島市）の雑貨店「What」には、文字デザインだけが違う3wayバッグに100件を超す注文が入った。店長は「勝負メシだけでなく、持ち物にも注目が集まるとは」と驚いたという。

鹿児島空港の国際線には、ソウルや上海などアジア4都市を結ぶ週38便が飛び、19年には過去最多の41万1616人が利用。バッグは20年3月、海外のインフルエンサーや賓客へのお土産として企画・制作された。しかし、その後は新型コロナが世界中で猛威を振るい、インバウンド（訪日外国人）は消滅。バッグは日の目を見る機会を失った。

それでも、関係者は歩みを止めない。海外のエージェントと協力して、定期便が就航していたアジア各地で粘り強く鹿児島をアピールする。鹿児島県と県観光連盟は宮崎県と共催し、2月13日まで台湾・台北市でイベントを開催。21年7月に世界自然遺産登録された奄美や、黒酢、緑茶といった免疫力を高めるとされる鹿児島の食などを紹介する。県観光連盟海外誘致部の鹿籠六貴子課長は「『コロナ後に行きたい』と思ってもらえるよう、鹿児島を発信し続けたい」と前向きだ。

どんな苦境でも、地道な努力はきっと実を結ぶ。鹿児島県内の海外旅行関係者に、藤井四冠は改めて教えてくれた。

南日本新聞社 営業局広告営業部副部長 谷上英文



県観光連盟が企画・制作したトートバッグ



会場でクイズラリーに参加する来場者＝台北市